

Voices for the Future

ワークショップを通じて、未来社会のために今、それぞれの立場で考えていることをご紹介します。

**未来を想像するってこんなに面白い！
寓話づくりで広がる、楽しく深い未来。**

未来の寓話づくりで、ファシリテーターをしていると、「この未来の言葉は何だ?」「なるほど、そうくるのか!」と、思わず唸ってしまう瞬間があります。人間の想像力は、本当にすごいです。参加者やAIと一緒に「未来の寓話」を考えると、気づけば想像がふくらみ、「あんなこといいな!」「え、ほんまかいな?」と、楽しく深く未来について対話できます。あなたの想像する未来も、ぜひお聞かせください。



高度教養教育・学生支援機構

山内 保典



**誰かが描いた未来の上に、私たちは立っている。
私たちも、未来をデザインする側に！**

いまの当たり前は、かつて誰かが思い描いた未来そのものかもしれません。そう考えると、これからの未来もまた、私たち自身が形づくっていかねばならないのでしょうか。私たちは、専門や立場を問わず誰もが未来社会について対話できる場を設計しました。日常の延長にある問いから未来を考え、語り合う。こうした脈やかで開かれたやりとりの中こそ、理想の未来社会を描ける可能性があると感じ、これからも想像や問いが芽生える場をつくり続けていきたいと考えています。

東北大学大学院 工学研究科 博士後期課程

寺山 隼矢

**AI活用や自由な対話の積み重ねで見えてくる、
ありうる未来社会と、ビジネスのヒント。**

専門分野の研究者や学生、また市民など多様なメンバーと相互理解を深めながら、技術の進歩と人間社会との関係について自由闊達な議論を進めることができました。AIやデジタルツールを活用した想像力の喚起、起こり得る社会を実験的に示す「未来の寓話」の作成と、それについての対話を重ねて行われる未来社会デザイン塾プロジェクトのこうした議論モデルからは、今後の事業のあり方を考えるうえでの示唆を得ることができると思います。



東京エレクトロン株式会社サステナビリティ 統括部 部長

荻野 裕史

東北大学 知の創出センター × 東京エレクトロン

未来の寓話プロジェクト

— 未来への思考力を高めるワークショップの記録 —



東北大学 研究推進・支援機構 知の創出センター

〒980-8577 仙台市青葉区片平2丁目1-1 知の館 1階 / E-mail: tfc_tel@grp.tohoku.ac.jp

TEL
TOKYO ELECTRON



TOHOKU FORUM
for CREATIVITY

「人間が想像できることは、人間が必ず実現できる」
By Jules Gabriel Verne

2024

About the Workshop

ワークショップの構成

未来の寓話プロジェクトで実施するワークショップは、3つの独立したステップで構成されており、それぞれ個別に実施しやすい設計になっています。

STEP.
1

構想



対話を通して「未来の言葉」※1を考え、
寓話の舞台、世界観を想像する。

POINT

- 言葉のおかしな組み合わせで思考を飛躍させる
- 造語から未来への発想をひろげる
- 偶然に生まれた未来像で常識を揺さぶる

STEP.
2

創作



構想をもとに生成AIを活用して、
「未来の寓話」をつくり、
未来について対話する。

POINT

- 他者との対話で多様な立場から考える
- 生成AIとの対話で想像を加速する
- 主人公の視点で未来を疑似体験する

STEP.
3

鑑賞※2



寓話に描かれた世界の
実現可能性について
より具体的な思考実験をする。

POINT

- 寓話を手掛かりにありたい未来を考える
- 専門家の視点で寓話の含意を現実の問いとつなげる
- 今からできるアクションを構想する

想像できれば、
そこに向かうことができる。
このワークショップでは、
対話と寓話の創作を通じて、
未来を思考し、
アクションを起こすきっかけを
生み出します。

※1 未来の言葉とは「まだ見ぬ世界を発想するための
ちょっとおかしな造語」
藤本敦也・宮本道人・関根秀真（編著）. (2021).
SF思考—ビジネスと自分の未来を考えるスキル.
ダイヤモンド社, pp.99-107より

※2 STEP3は開発中（2025年3月現在）。

ワークショップの成果物

ワークショップで実際に考えられた「未来の言葉」と、その構想をもとにつくられた「未来の寓話」を紹介します。

STEP. 1

みんなが考えた
「未来の言葉」

「未来の言葉」とは、まだ見ぬ世界を発想
するためのちょっと不思議な造語です。
この言葉から未来の職業やテクノロジー
を発想し、思考を飛躍させました。

「天気操作技術」

SF的な天気コントロール技術
を通じて、気候変動や政治・
経済・倫理・環境問題を描き、
現代社会を批評し未来を示唆
する。

「光合成人間」

人間が光合成を獲得し植物化
する未来を描き、環境問題や
存在意義を問う。社会・食文
化・差別など多角的に探究。

「パスタ管」

SF的なパスタ管インフラと
「米派」の対立を通じ、食糧問
題や文化の多様性、技術と社
会の摩擦を風刺。

「睡眠不要薬」

睡眠不要の薬が普及した社会
で、主人公が時間の価値と幸
福を模索。現代人の普遍的な
問いをSF的に描く。

「経験移植」

経験を移植できる世界で、知
識共有や格差、努力と成長、
アイデンティティの喪失を描
き、技術と人間の尊厳を問う。

STEP. 2

「未来の言葉」から
つくられた寓話

「未来の言葉」をもとに構想し、生成AIを活用し
ながら創作された寓話です。
どんな未来が望ましいか、また望ましくないか、読
者の思考を刺激する作品になっています。

未来の言葉：「経験移植」

タイトル：「空白を見つける日」

「うちの子が遅れてるんじゃないかって、不安で仕方ないのよ。」つい、声が震えた。

朝も夜も、スマート端末で他の子の「経験進度」をチェックするのが習慣になっていた。
親たちは必死で、経験移植サービスで次々とスキルを買い与え、
効率よく子どもを育てようとしている。私もそうだ。
娘には、成功の経験も挫折の経験も、全部「効率的」に与えてやらなければと思ってきた。

ある日、ふと娘の顔を見ると、その目は空ろだった。
「ねえ、どうしたの？」と尋ねると、彼女は一瞬ためらった後、ポツリと答えた。
「もうやめたい。私の頭の中、全部、誰かの経験でいっぱいいて…自分がいなくなっちゃいそうなの」

私は一瞬、言葉を失った。与える経験が多ければ多いほど、彼女は幸せになると信じていたのに。

その夜、同じように経験を「詰め込んだ」子を持つ友人に愚痴をこぼした。
すると、彼女は肩をすくめて笑った。「うちも同じよ。でもね、気づいたの。
彼らに本当に必要なのは、自分で転んで痛みを知る経験なのかもって」

彼女の言葉に、私は半ば呆然と笑ってしまった。
気がつけば、私は何もかも与えようとして、娘の中に「自分の空白」を残すことを忘れていたのだ。

その翌朝、私は娘の経験リストを見ながら、初めて手を止めた。
「今日はなにもしないでいいよか？」と提案すると、娘は驚いた顔をした後、少し考えて笑った。
「うん、それ、なんだか新しい経験かもね」

